



平成29年度「知事との意見交換会」にて

(H30.1.29 於 盛岡市ホテル東日本)

CONTENTS

- 01 ●Opinion
「震災から7年、第3期復興実施計画2年目の取組み」
岩手県復興局 局長 佐々木 信 氏
- 02~13 ●主要記事
- 02~07 「知事との意見交換会」
「いわて中小企業の魅力づくり・魅力発信、次代に持続する企業へ」
- 08 平成29年度補正「ものづくり・商業・サービス経営力向上
支援補助金」公募開始
- 09 商業活性化セミナー開催
ウルトラD宮古2017成果報告会開催
- 10 「女性活躍推進セミナー」開催
- 11 平成29年度岩手県中小企業青年中央会事業
「若手経営者等連携促進フォーラム」開催
- 12 いわてキラリ企業合同就職説明会2018を開催
岩手県U・ターンフェアⅡへ出展(共催)
- 13 組合運営基礎研修会、組合決算・税務講習会、自治監査講習会開催
会員情報
- 14~15 ●岩手県内中小企業概況(1月)
- 16 ●中央会Information/関係機関からのお知らせ
第63回岩手県中小企業団体中央会通常総会開催のご案内
第41回岩手県中小企業青年中央会通常総会開催のご案内
第70回中小企業団体全国大会開催のご案内



「震災から7年、 第3期復興計画2年目の取組み」

岩手県復興局 局長 佐々木 信



東日本大震災津波の発災から7年が経ちました。

県では、第3期復興実施計画に基づき、被災者一人ひとりに寄り添った支援を行いながら、三陸のより良い復興の実現に向け、全力で取り組んでいます。

これまでに、土地の区画整理等の復興まちづくり事業は約7割が完了し、災害公営住宅については約9割が完成、公立学校施設は約97%が完成し、事業所の約8割が再開しました。

商店街や商業機能の再生も本格化し、去年は、陸前高田市の「アバッセたかた」や、大船渡市の「キャッセン大船渡」が開業しました。復興道路の整備は、かつてない速さで進められており、来年度には、東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通が見込まれています。

また、昨年9月に釜石港で大阪府から寄贈されたガントリークレーンが供用を開始し、本年6月には、宮古・室蘭間のフェリ一定期航路が開設されるなど、当初の復興計画には盛り込まれていなかった事業も進んでいます。

一方、今なお、応急仮設住宅等での生活を余儀なくされている方へのケア、漁業や商店街の再生、中小企業における事業再開後の販路回復や人材確保といった課題が生じています。

「なりわいの再生」における今後の復興施策ですが、中小企業の本格的な再生・復興に向け、本設事業所への移転や、販路拡大による収益性の回復を支援します。また、事業再開後の経営安定を図るため、経営・金融両面からのフォローアップ支援を継続します。

観光については、「三陸DMOセンター」と連携し、観光人材の育成や地域資源を生かした高付加価値旅行商品の開発を促進するとともに、本年6月に開催される「東北絆まつり」への支援や三陸地域への誘客促進に向けた観光キャンペーンにも取り組みます。

水産業については、担い手の確保・育成、高度衛生品質管理体制の構築による水産物の高付加価値化や、漁港施設の耐震・耐津波の強化対策に取り組めます。

また、原木しいたけの産地再生を図るため、生産者の規模拡大に対する支援や新規参入者確保に取り組むほか、首都圏に加え、中京圏でもプロモーション活動を展開し、安全・安心で品質に優れる県産食材の魅力を発信します。

来年度は、県の復興計画期間の最終年度です。皆様の参画もいただきながら、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指して、「オール岩手の力」と様々な「つながりの力」を結集し、すべての県民の皆様が希望を持てる復興を進めていきましょう。

『知事との意見交換会』

「いわて中小企業の魅力づくり・魅力発信、次代に持続する企業へ」

1月29日(月)、盛岡市「ホテル東日本」において「知事との意見交換会」を開催した。

労働力人口の減少、新卒者等の首都圏への就職者数の増加等により人材確保が非常に厳しい

状況にある中、本県中小企業等が多様な人材を確保しその能力を最大限に発揮するための職場環境づくり等により生産性向上・働き方改革等に取り組んでいる県内中小企業と県当局との意見交換を行った。

(敬称略)

岩手県出席者	
達 増 拓 也	岩手県知事
菊 池 哲	〃 商工労働観光部長
高 橋 毅	〃 経営支援課総括課長
高 橋 利 明	〃 雇用対策・労働室雇用対策課長
発 表 者	
川 又 裕 吉	(有)栄光商会 代表取締役
佐 藤 智 咲	〃 ダスキン事業部
熊 谷 遥 香	〃 住宅型有料老人ホーム 「こはくの風内丸」相談員
照 井 勝 也	(株)西部開発農産 代表取締役社長
西 村 晶	〃 生産部農産課アスパラ担当・ 人事委員会採用活動担当
伊 東 正 文	(株)リードコナン 代表取締役常務
熊 谷 知 輝	〃 北上支社開発部
岩 尾 哲 二	(株)北日本朝日航洋 代表取締役社長
芳 賀 芽久美	〃 生産技術部地理情報グループ
中央会出席者	
谷 村 久 興	岩手県中小企業団体中央会 会長
齊 藤 俊 明	〃 副会長
平 野 喜 嗣	〃 副会長
小 山 田 周 右	〃 副会長
菅 原 和 弘	〃 専務理事

(有) 栄光商会

代表取締役 川又 裕吉 氏

弊社は、昭和48年に創業しました。44年が経過しております。ダスキンのフランチャイズに加盟し、現在は一般家庭7,500件、官公庁及び一般企業800件のお客様に支持していただいております。営業エリアは久慈市、二戸市他4町4村です。

2017年、介護事業部有料老人ホーム「こはくの風内丸」を開所。6階建ての有料老人ホームで、岩手医大付属病院の救急センター玄関より約30秒のところにあります。定員32名、併設事業はディサービスセンターこはくの風内丸、ヘルパーステーション内丸、ケアプランセンターです。

人材確保についてですが、2010年頃までは求人広告を出しますと早ければ翌日に応募者があり、5、6倍の倍率で選考してきました。このときは、求職者を我々企業が選別していた時代です。現在は、募集を公開してもなかなか問合せも応募もない状況となり、企業が求職者からテストを受けている時代だと感じております。企業がテストに合格するためには、収益の安定、福利厚生、社風、教育制度、経営理念があげられると考えております。

育成について、私どもは新卒採用に重きを置いております。新卒の方々に人生の目的を聞きますと、具体的な内容はほぼ返ってきません。新人の方々と人生の目的を一緒に探求していくことが重要である。そして、人生や仕事の意義を持ち直すこと、お互いの気持ちを理解しながら、我々は一緒に歩み続けることを目的としております。

定着は総合力だと考えております。定期昇給、資格支援、外部研修、定期的な面談による意思の疎通など、いろいろな要素がありますが、定着度を高める要因としては、相手を思いやることと、信頼関係だと思っております。



企業の魅力は全社員で新人を育てること。縦の繋がりがりよりも横の繋がりを重視しており、アットホームな企業風土を目指しています。

魅力の発信については、自社でできることはホームページの刷新。常に更新を行いSNSなども利用しております。もう一つは、他の方々の力を借りること。中央会、ふるさといわて定住財団様にご支援をいただい

ております。

人材確保は、合説が基本です。年 10 回以上参加しております。自社の会社説明も 10 回以上開催しております。相互理解を深めるため、インターンシップも実施しています。交通費の全額支給、宿泊費、食事代なども負担して、気軽に参加していただけるようにしています。今後は、一人でも多く気軽に参加できるよう時間の短縮化、半日から一日で終わらせるなどインターンシップを進化させていきたいと思っております。

育成については、来年度より関連会社の製菓販売業での研修または、事業部を超えた研修を予定しています。育成の要素には社員同士の絆が重要です。お互いを理解し、尊重し、信頼できれば組織は強くなります。若手の交流会や親睦会も定例化しています。

続いて、佐藤が発表します。

○ダスキン事業部 佐藤 智咲 氏

私の入社のも動機、きっかけは、県内の合同企業説明会でした。就職活動をするうえで、社内の関係が良好で、岩手に密着した企業を探していました。その時、弊社の社長と採用担当の方に出会いました。明るい雰囲気と経営理念にある「よろこびの種まきをすること。損と得とあらば損の道を行くこと。」に強く心を打たれ入社を決意しました。

当社の魅力は丁寧な新人研修にあります。社長が講師となり、先輩方も丁寧に指導してくれます。知識ばかりではなく、挑戦することの大切さも教えていただきます。

今後の目標は、今は教えていただいているばかりですが、社会人としての力を身に付け、会社や岩手の活性化に貢献し、将来的には岩手に若者を集められるような人材になりたいと思っております。

○住宅型有料老人ホーム

「こはくの風内丸」相談員 熊谷 遥香 氏

入社のはきっかけは、去年の夏に行われた就職フェアに参加した際、後日施設を見学させていただくことになりました。私は学生時代にボランティアや実習で、数カ所のデイサービスや老人ホームなどの施設を見学させていただきました。その中でも「こはくの風」の利用者様はとてりリラックスしており、まるで温かい家で生活しているように感じました。そのような光景を見て、私も利用者様の暮らしの力になりたいと思入社を希望しました。

私が思う自社の魅力は、様々な年代、資格をもつ職員がいて、頻りに意見交換を行うことです。利用者様の身体、精神状態を維持・向上させるために、それぞれの職種の視点から意見を出し合い、問題解決に取り組んでおります。先輩方のお話を聞くことで、自分だけでは気づけなかった問題や対応策を学ぶことができ、自信のスキルアップにつながります。

最後に個人目標です。デイサービスの相談員として

の仕事は、利用者様の通所にあたる説明及び契約、利用中の本人、ご家族からの不安や問題への相談業務などがあります。利用者様が安心して毎日の生活を送り、ひとつでも多くの笑顔を引き出せるようになることが目標です。目標を達成させるために社会福祉士の資格を取り、知識を深め、日々のふれあいから利用者様やご家族のお話しに耳を傾け、気持ちに寄り添い関わり合えるように支援していきます。

○代表取締役 川又 裕吉 氏

人材育成の最終的な目的は、強い決心ができる人材を育てることだと思っております。

今後の目標としては、地元の人材は地元で定着をしていただく、家族を持ち、そこで暮らすことができる。また、岩手を一度離れた方々にも就労の場をつくり地元で生活して欲しいと思っております。それには、事業の多角化による会社の発展が必要と思っております。以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(株)西部開発農産

代表取締役社長 照井 勝也 氏

当社の設立は昭和 61 年 4 月となっておりますが、実はこの以前から米の生産調整が始まりまして、転作の受託組織としてスタートしたのがきっかけです。その後も毎年依頼される面積が増え続け、昭和 61 年に当時の仲間 3 人と法人化しました。

経営規模は、耕地面積が約 820ha。二毛作ですので栽培面積は 900ha を超える作付け内容です。畜産部門は肉用牛 120 頭、繁殖が 90 頭、その他、育成と呼ばれるものが 5、60 頭いますので合計で 260 頭ぐらいです。全て黒毛和牛ですので、3 等級以上になりますと岩手牛となります。北上地域は各付が 4 等級以上ですと、北上牛というブランドもありまして、当社はこの北上牛の上物率と言われます 95% を有しています。担当者が頑張って非常に良い結果を残していると思ます。ちなみに先日岩手牛の共励会が東京であり、当社の牛が最優秀賞をとりました。



資本金が 2,697 万円。売上高が昨年の 3 月期で 5 億 2 千万円です。従業員は正社員 40 人、期間社員、パー

ト社員 70 人合計で 110 人です。正社員は平均年齢が 30 代前半で、非常に若い人に頑張ってもらっていることが会社の特徴です。

当社の組織体制は、取締役 3 人、管理部、生産部、営業部と 3 つの部門から成り立っております。

業務内容は、穀類が中心で、全体面積の 99%米穀作物が占めるという典型的な土地利用型農業です。野菜類は、アスパラガス、ベビーリーフ、青ねぎ等で、全部合わせて約 500ha です。畜産部門は先ほどのとおりです。

受託部門として、農作業受託はもちろんですが、今の季節は除雪作業も請負っております。それから建設業、こちらは東日本大震災の影響で県内にも放射性物質が流れてきたので農地の除染を行いました。仕事自体は農作業なのですが、分類的に建設業にあたるということで、それをきっかけに資格を取得しました。

また、加工部門として精米、味噌、麺類の商品化、その他、農業機械の整備、販売という資格も取っています。それから飲食部門として、昨年 10 月に直営店を開店しました。

当社の経営の基本理念は 4 つありますが、このうちの最初、「郷土の農地を守り、国土の保全に努めます。」これが当社の柱です。耕作放棄地、後継者のいない農家、条件の悪い農地を進んで引受け、基本的には依頼されたら断らないという理念のもとにやってきました。

先ほどの経営の基本理念にもありましたが、非常に条件の悪い圃場が多くあります。となりの金ヶ崎町ですけれども、10 数年間耕作放置されていたところの依頼を受け、木を伐り、重機を借りてきて根っこも掘りました。石も拾って整地しました。整地した後に小麦を播種して、翌年きれいな麦畑ができあがりました。荒れた農地がこのように復元できたということで非常に良かったと思います。

人材の育成についてですが、人材は人で成立っています。当社もいろいろな企業説明会に参加させていただいております。新卒を採用する場合は農業部門だけではなく、商業系でも工業系でも関係なく、熱意があってやる気がある方には入社していただきたい。学部は問いません。仕事をしていく上でいろいろな資格が必要になってきますので、入社していただいた後、その人の状況に合わせて会社が負担していくというスキルアップ制度を設けています。それから、当社は年功序列ではなく、性別年齢関係もなく結果を出して頑張った方には、どんどん上のポジションについてもらう仕組みです。スキルアップ制度は 6 つの条件があり、これらを全てクリアすると制度が使えます。こちらを年度末に一人一人査定をして翌年の給与に反映します。大きく 3 つに分けると成績考課、能力考課、態度考課で査定して、上がる人、下がる人、それぞれ差をつけてやる気を出してもらっています。考課は、一次、二

次、三次があり、一次考課は直属の上司と面談をして、本人に過去一年間どうであったか反省も含めてやってもらう。二次、三次考課は、直属の上司、人事次長ということで、三次考課の数字で決まります。

○生産部農産課アスパラガス担当・

人事委員会採用活動担当 西村 晶 氏

私がこの会社に入ったきっかけは、後継者の不在、所有者の高齢化や耕作放棄地の取組について、農業の担い手として地域の農業を支えて行くという経営理念に一番共感して決めました。

農地再生などの経営理念に加えて、社員の平均年齢が 30 代前半ということで、私と近い歳の方がたくさんいる環境という中で活気があふれているということも魅力の一つです。

現在は生産の方ばかりで技術を身に付けることが主になっていますが、今後は経営の勉強もしていきたいと思っております。

○代表取締役社長 照井 勝也 氏

当社としては食育への取組として、近隣の小学生、中学生の農業体験の受入れをしています。それから保育園児の農場見学も受け入れています。一般の北上市の方で、農を楽しむと書いて農楽校をしていた方に当社に入社していただいたというケースもあります。当社からの説明はこれで終了いたします。どうもありがとうございました。

株式会社リードコナン

代表取締役常務 伊東 正文 氏

岩手県の人口は平成 24 年約 130 万人、平成 29 年は約 125 万人となり 5 年で約 5 万人減少しています。少子高齢化がさらに加速しており、県内市場だけでは企業を成長させることが厳しくなっています。

弊社はパソコンショップとして創業し、創業 35 年目となります。昨年、本社建設に伴いパソコンショップは廃業しました。理由は Amazon や価格.com など Web ショップの影響により価格で太刀打ちできなくなったこと、ソフト開発部門が好調で人員不足のため、人員を他の部署へ回したかったためです。

岩手県内の市場は減少傾向にあり、付加価値のないものは発展が難しいのが現状です。弊社では付加価値の高い税務 LAN というパッケージソフトを全国に販売しています。確定申告の受付、住民税課税支援、消費税申告、法人住民税申告、イメージ管理システムの総称が税務 LAN ですが、1992 年岩手県紫波町に始まり現在は北海道から沖縄まで全国 460 自治体で導入されています。全国シェアは約 26%、岩手県内は 31 自治体中 29 の自治体で稼働しています。県内は自社で販売サポート、県外は大手を含めたビジネスパートナー会社経由で販売サポートを行っています。市町村の職員、販売会社、弊社との意見交流会を定期的に行い、現場の声を製品へフィードバックして、毎年改良して

います。

弊社は、企業の成長力は人材が全てと思っており、人を大切にする会社を目指しています。人材育成、教育方針はヒューマンスキルを上げることを目標としています。入社1年目から3年目は主に岩手県ソフトウェアセンターの研修を利用しています。福利厚生も充実させ、厚生年金の他に確定拠出年金にも加入しています。弊社は小売から創業したので、年間休日は105日でしたが、若い社員からの提案により年間休日が120日になりました。休みが15日間増えたことで業績が落ち込むのも覚悟しましたが、休日を増やしてから5年間の業績は伸び続けています。社内コミュニケーションを良くするために2年に1度は社員旅行の実施、毎年内定式を兼ねての芋煮会、ソフトボール大会、ボーリング大会なども実施しています。



社長に対して、毎月メールで意見や提案をする制度があり、この制度により福利厚生や社内環境が充実してきました。女性が出産してからも働ける育児休暇、時短勤務などの取得実績があり、復帰率は100%、現在まで6人、9回の実績があります。

人材の採用については、とても苦労しています。県外大学の合同企業説明会では、地元企業が優先されて県外の中小企業は参加できない状況です。採用試験に来る人数は減っていませんが、採用通知を出しても辞退者が出るのも痛いところです。また中途採用は戦力になりそうな方がなかなか来てくれません。UIターンでも人材の確保が厳しい現状です。いろいろな取組をしておりますが、岩手県外の企業に目が行きがちな学生にアピールしきれていないのが現状です。岩手大学の情報システム科の県内就職率35.6%。岩手大学全体の県内就職率39.9%。岩手県立大学のソフトウェア情報学部の県内就職率21.4%。岩手県立大学の県内就職率43.5%となっており、学生が県外に流出し人材確保は非常に厳しい状況です。就職活動をしている学生にヒアリングすると、県内の優良企業の名前をほとんど知らないケースもありました。企業側も魅力の伝え方や魅力の発信力が弱いと感じています。

人材確保が年々厳しくなっているため、3年前からマイナビに有料で登録しています。今年からマイ

ナビのインターンシップも登録しています。会社の知名度を上げるために、テレビCMを積極的に実施しています。採用環境を含め、広告宣伝費は昨年の2倍以上の経費をかけています。初任給も全国平均に近いレベルに上げることにしました。

人材育成については入社してから30歳前後までは、会社側で必要な研修を用意して参加させています。中堅以上の社員は必要に応じて、技術系、営業系の研修を企画しています。また、積極的に自己啓発ができるように会社で経費を負担しています。

○北上支社開発部 熊谷 知輝 氏

私の仕事のやりがい、醍醐味についてお話しします。私は主に税務関係のシステムを開発しているため、毎年の税制改正に伴う調査や勉強が必要になります。また、システム講習の講師を行う際もお客さまへのシステムの変更点等の説明をする必要があるため、常に新しい知識を必要としやりがいを感じております。システムを導入したことによって、お客様の業務改善につながることも多く、感謝の言葉をいただいたときが一番やりがいを感じます。

これからの目標は、自社製品の導入団体数を増やすために、さらに使いやすいアプリケーションの開発や新たなデバイスへの導入を行いたいと考えています。また、導入時、導入後のフォローまでスムーズに行えるよう、仕様を理解すると共に、説明力も高めていきたいです。今後は上に立つ立場に変わっていくため、部下の使用や作業把握なども行っていこうと思っています。

○代表取締役常務 伊東 正文 氏

3~5年後に税務LANの全国シェア30%、515カ所への導入を目標としています。さらなる企業の魅力づくりも必要と感じています。そのためには、優秀な人材の採用と人材育成が緊急の課題です。発信力不足、努力不足で学生に伝えきれていないことも多いと感じています。

県内企業の魅力を学生に伝えるためには、企業努力もありますが、大学の理解、協力が必要と感じています。特に大学においては、教授など教職員の方々に企業の存在を知ってもらう取組が必要であると考えています。国が進める働き方改革は、ただ残業を減らし雇用をシェアすることで雇用を増やすことではないと思います。岩手県でつくるシステムや製品は、付加価値のあるものにして生産性を上げ、全国や海外へ販売していくことに重点をおかなければ、今後の発展はないと思います。そのためにも、優秀な学生を育て県内に少しでも残ることができるようなシステムが必要と感じています。企業にとって人材確保と人材育成は重要な課題と認識しています。今後採用できない企業は倒産するしか道はないと思い採用活動へ臨んでいます。

株式会社北日本朝日航洋

代表取締役社長 岩尾 哲二 氏

我が社の企業理念、事業方針、経営の軸足についてですが、企業理念は「従業員を豊かにする、幸せにする」ということを一番に考えています。事業方針は4つの安全「労働安全、情報安全、交通安全、品質安全」とコンプライアンスの遵守を掲げております。経営の軸足については、従業員第一主義。この3つの柱を経営の軸に備えております。

我が社は建設関連業、測量建設コンサルタントです。我が社を取り巻く市場環境の課題は、巨大台風や集中豪雨の防災、減災対策、国土強靱化対策、公共施設の老朽化対策です。中央大手のコンサルタント企業は成長しています。しかし、地方財政の緊縮化のなかでは、中小企業は少し減っている状況です。労働人口が減少している現状、それからなんといっても、三次元計測のようなICTの技術革新についていかなければならないという社会環境の中で、従業員一人一人が力を発揮できる職場環境を作り上げ最先端技術に対応できる人材育成・確保が必要です。多様な人材、女性であっても男性であってもいろいろな若い人、高齢者そういった人々が活躍できる職場にしていかなければならないということで、ダイバーシティ経営、ワークライフバランスの推進など、働き方改革に取り組んでおります。



働き方改革を推進、成功させるためには何をしなければならぬか。従業員の意識を変える（正しい危機感）、仕組みや制度を変える、仕掛けづくり（やらされ感のない）を掲げておりますけれど、果たして本当にそれだけでよいのだろうか。継続しなければ成功しない。成功させるためには、従業員のやる気を本気にさせること、愛社精神を高めること、何よりも自分の未来に安心感を持たせることと考えました。また、生産性の向上に繋げなければならぬので、数値目標を生産性の20%アップに掲げました。

これまでは個人個人がスキルアップする、業務の効率化を図ることで、数値目標を達成してきましたけれど、生産性の20%アップを考えると、チーム力の向上が絶対条件であると思いました。このチーム力の向上というのは、メンバー同士が信頼関係で結ばれ、大切

な価値観を組織の目指すものと共有しているという仲間であるという信頼感を持つこと。このようなことがチーム力の向上に繋がると考えています。メンバー同志の信頼がない組織は、無関心であり、周りに相談しない組織になる危険性をはらんでいると思います

そこで、私が、イクボス宣言をしました。達増知事もイクボス宣言をしておりますけれど、イクボスというものは、部下や従業員の人生そのものを応援するという上司のことです。人生、これは従業員を幸せにするという企業理念にも合致しています。ここで、3年生になります芳賀からのお話しに移ります。

○生産技術部地理情報グループ芳賀 芽久美 氏

私が会社に入るきっかけとなった動機について、大学時代は防災にも興味があったのですが、東日本大震災をきっかけに、少しでもその興味関心を生かして地域に貢献できる仕事に就きたいという思いがありました。就活時代に調査測量、設計等の技術で災害時、自治体に貢献している地元企業と出会ったのが入社した動機です。

しかし、大学時代の所属は教育学部で当社の仕事における専門用語やCAD等のツールを生かした業務手順など、覚えるのに大変苦労しております。

また、お客さまとの打ち合わせの場でのコミュニケーションも不慣れな面が多く、先輩社員から支援をいただきながら物件を受け持っております。知らないことや新しいことにチャレンジすることはとても苦労を伴いますが、成果品を無事納品できたときには、達成感ややりがいを感じます。

今後は会社からもお客さまからも頼られる技術者に成長していくことが目標です。少しずつでも自分の技術力を向上させ、成長していきたいと思っています。そして会社には若手社員など女性技術者が輝きながら働ける環境、男女問わずに活躍できる場を広めて行くことを期待しています。自分もその一躍を担って行きたいと思っています。

○代表取締役社長 岩尾 哲二 氏

ご参考までに「あなたにとって株式会社北日本朝日航洋は何ですか？」という質問を従業員に尋ねた回答をそのまま貼りだしております。「自己啓発」だとか、「私にとって父であり、母である」とか「愛」とか、良いことを従業員は皆思ってくれているのだということを実感しました。

社屋のフロアは4階までありますが、各フロアに各月に貢献して下さった方に賞を贈るという、褒め合う文化を作りつつあります。これは男性の従業員が育児休を取られたということで、「子どもができたから、俺はイクメン王になるのだ。」と言って、有言実行を果たした為、表彰した賞です。その他、毎年標語コンクールを実施しております。ワークライフバランス分野、品質分野など、今年度4件表彰しました。最優秀賞はど

ちらもパート社員からの応募作品です。
どうもありがとうございました。
以上で株式会社北日本朝日航洋の発表を終わります。

谷村会長 コメント



本日は皆さまより貴重なご発言をいただき有難うございました。経営者の皆さまからは、自社の経営環境、課題を冷静に捉えて明確なビジョンのもとで従業員の幸せを願い、ここで働きたい、勤務を続けて、人材育成や働きやすい環境を従業員と共に専念されているということがよくわかりました。大変羨ましいと思っております。私も経営者として、今日の皆さんのお話しを聞いてウロコが取れたような気がして、もっと頑張らなければという気持ちになりました。

企業の魅力づくりということで、皆さま方、非常に立派な業績を残しておりますのでとても参考になりました。これら

の取組が企業の成長に繋がっていく。これを各社で明確に持っているということがよくわかりました。

若手の社員の皆さまからは、「地域に貢献したい、地元に着がある、経営理念に共感して、いろいろなことをやっていきたい。」ということが入社きっかけになっているというお話しがありました。企業の成長、仕事のやりがいというのは当たり前なのでしょうけれど、働きやすい職場環境、私も経営者のひとりでするので、そういうことをよく発言しているのですけれど、なかなかついてきてくれないということもありますので、今日のお話しを聞いて、やり方は各社各様ですけれど、本当に会社のことを思って、地域社会のことを思って仕事をしていくということ、しっかりと根付かせていると感じました。まだまだ人手不足という状況は続いておりますけれど、皆さまのお話しを聞いていれば、たくさんの方々がくるのではないかと期待しておりますので、今後も地域の発展のためどうぞよろしく願いいたします。

達増知事 講評

さすがは岩手を代表するキラリ企業の皆さんで、動画も魅力的でしたし、発表も素晴らしかったと思います。それぞれ社長と若手社員のコンビネーションやチームワークも良く、普段の会社での中の様子も伺えました。

日本は人手不足時代に突入していて、これは地方も都会も同じです。地方に雇用の場があれば人が出て行かないということではなく、地方に雇用の場があっても都会との競争で人が来ないということもあり、人が取れないということが会社の命運を決めてしまう時代になっているのだと思います。そういう時代において、まずは採用ということに非常に丁寧に対応し、その前提としての会社のPRであるとか、採用した人の育成についても、大変丁寧に工夫をこらしていると感じました。それが自然体で行っていることで社内のコミュニケーションを育てているのだと思いました。

この人材の確保、育成は固有の取組と併せてそれぞれ会社の経営戦略で新しいことに広げていくとか、新しいサービスを開発していくなど、会社全体の発展、進化の中で人の扱いもよりいろいろなことにチャレンジできるとか、やりがいのある仕事ができるようになっていて、会社そのものが新しい分野への挑戦とか、新しい製品への開発をしっかりとやっていくことと相まって人の採用や人材育成が上手くいくのだと感じました。経営と人材の両輪でそれぞれ会社の魅力を高めて、アピールしていただいて、岩手全体の働く場の魅力の向上、それが県外の若い人たちやその家族に伝わるように、県としても、中小企業団体中央会と連携して、アピールしていきたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。





平成 29 年度補正「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」 公募開始

平成 30 年 2 月 1 日、通常国会において平成 29 年度補正予算が可決成立し、本会では、経済産業省の平成 29 年度補正「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」の岩手県内の窓口として、2 月 28 日（水）から本補助金の公募受付を行っている。

本補助金の詳細については下記の通りである。革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善などを検討されている中小企業者は、是非ご検討されたい。

【目的】

足腰の強い経済を構築するため、日本経済の屋台骨である中小企業・小規模事業者が取り組む生産性向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資等の一部を支援するものです。

【補助対象事業・要件】

◆本事業では、『革新的サービス』『ものづくり技術』の 2 つの対象類型があります。また、それぞれについて、『企業間データ活用品』『一般型』『小規模型（設備投資のみ、試作開発等）』の事業類型があります。補助率は、事業類型、取得計画、企業規模によって異なりますので、以下をご確認下さい。

事業類型	補助上限額	補助率	設備投資	補助対象経費
企業間データ活用品（※1）	1,000 万円	2/3 以内	必要	機械装置費、技術導入費、専門家経費、運搬費、クラウド利用費
一般型	1,000 万円	1/2 以内（※2）		
小規模型（設備投資型）	500 万円	1/2 以内（小規模企業者 2/3 以内）		
小規模型（試作開発型）	500 万円		可能	上記の他、原材料費、外注加工費、委託費、知的財産権等関連経費

○いずれの場合も生産性向上に資する専門家の活用がある場合は、補助上限額の 30 万円の増額が可能。

（※1）「企業間データ活用品」において、連携体は幹事企業を決め、10 者まで。さらに連携体参加者×200 万円を上限とした追加分を連携体内で配分できます。

（※2）「一般型」において、生産性向上特別措置法（平成 30 年通常国会提出）に基づき、固定資産税の特例率をゼロの措置をした市町村において、補助事業を実施する事業者が、「先端設備等導入計画」の認定を取得した場合の補助率は 2/3 以内

「一般型」において、3～5 年で、「付加価値額」年率 3% 及び「経常利益」年率 1% に加え、「従業員一人当たりの付加価値額」年率 3% を向上する中小企業等経営強化法に基づく経営革新計画を、平成 29 年 12 月 22 日以降新たに申請し承認を受けた場合の補助率は 2/3 以内

◆申請事業は、『革新的サービス』、『ものづくり技術』のいずれかの類型の要件を満たし、事業の実効性について認定支援機関の確認が必要となります。

『革新的サービス』

「中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン」で示された方法で行う革新的なサービスの創出・サービス提供プロセスの改善であり、3～5 年計画で、「付加価値額（営業利益+人件費+原価償却費）」年率 3% 及び「経常利益（営業利益-営業外費用）年率 1% の向上を達成できる計画であること。

『ものづくり技術』

「中小ものづくり高度化法」に基づく特定ものづくり基盤技術を活用した革新的な試作品開発・生産プロセスの改善を行い、生産性を向上させる計画であること。

【公募期間】

平成 30 年 2 月 28 日（水）～平成 30 年 4 月 27 日（金）（当日消印有効）

※応募書類は、郵送により岩手県中小企業団体中央会宛に送付願います。公募要領・応募書類につきましては、岩手県中央会のホームページからダウンロードしてお使い下さい。

【お問い合わせ先・申請先】

岩手県中小企業団体中央会 H29 ものづくり支援センター
〒020-0878 盛岡市肴町 4 番 5 号 岩手酒類卸(株)ビル 2 階
TEL : 019-613-2633 FAX : 019-613-2634

HP : <http://www.ginga.or.jp/> ⇒ 公募要領・応募書類様式はこちらからダウンロード

商業活性化セミナー開催

2月21日(水)、盛岡市ホテルルイズにおいて、商業活性化セミナー研修会を開催。商店街、共同店舗、スタンプ・ポイントカード事業を実施組合等の役職員等37名が参加した。

(株)ii(いい)代表取締役 上久保 瑠美子 氏を講師に迎え、「お金をかけずに地元客をガッチリ掴む『地域密着型の集客』」と題し受講したものの。

【講演要旨】

1. 業績が良い店舗と悪い店舗の違いとは
 - ・「商品」か「顧客」か「売り方」どれかひとつだけを変えてみる
2. 価格を下げるのではなく価値を上げる
 - ・「安いよ！」とPRしているから安いものが好きなお客様が集まる。「凄いよ！」とPRすれば良いものが好きなお客様が集まる。
3. 価値を伝える
 - ・商品説明をするとセールスマンになる。業界知識を伝えると頼れる専門家になる
4. 顧客満足を追求する
 - ・大型量販店が撤退。町の電気屋さんが勝った理由
5. 紹介をもらう
 - ・目の前の人に売らない。第三者に売ってもらう。その方法とは。



ウルトラD宮古 2017 成果報告会 開催

3月5日(月)、「宮古市成功店モデル創出・波及事業(ウルトラD宮古 2017)」の成果報告会を宮古市末広町「りあす亭」にて開催した。本事業は、商店街を構成する個店の経営力強化を図ることを目的に本会が宮古市から委託されたもので、今回で10年目を迎える。

今年度に指導対象となったのは生花小売、インナー・ルームウェア小売の2店舗で、専門家 高橋幸司氏による経営指導を受け、様々な気付きを実践に移すことで運営改善に結びつけた。

成果報告会では、2店舗から今年度に取り組んだ事業成果について詳細な発表がなされ、「大槌・山田で自宅を復旧する施工物件を紹介してもらい、お客様がお客様を呼ぶ好循環が生まれた」、「手書きのPOPを

増やした結果、今まで動きのなかった商品も動きだした」「新たにInstagramも始め、季節商品をリアルタイムで紹介できた」等の取組事例が発表・紹介された。



「女性活躍推進セミナー」開催 ～出口治明氏（立命館アジア太平洋大学学長）が講演～

2月22日（木）、ホテル東日本にて「女性活躍推進セミナー」を開催。近年政府が推進している働き方改革の実現に向けて、官民学が一体となって女性活躍・生産性向上を推進する機運を醸成し、県内の組合・中小企業等の労働環境の改善を目的としたもの。

講師はライフネット生命保険(株)創業者であり、立命館アジア太平洋大学（APU）現学長の出口治明氏。

本会小山田副会長の主催者挨拶の後、「女性活躍推進と働き方改革の在り方～働く人の幸福と企業成長の実現に向けて～」と題してご講演いただいた。

出口氏によれば、全ての人間は独自の人生観や価値観という色眼鏡で世界を見ているので、働き方改革や女性活躍に限らず、物事を判断するには「縦・横・算数」を意識して客観的な視点を持つことが大切とのこと。「縦」とは歴史から学ぶことであり、「横」とは日本と他国の比較から学ぶこと。そして、「算数」とは、データに基づいて物事を見ること。

このような視点に基づき、女性が働きやすい職場環境、定年制廃止の利点、働き方改革を実現するための組織の在り方などについて豊富な具体例とデータに基づく説明がなされた。

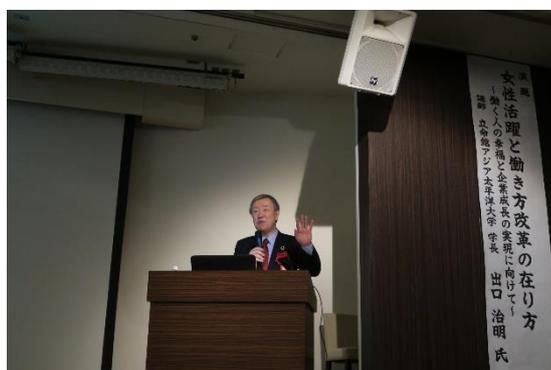
講演後の質疑応答では多数の出席者が質問するなど、盛会裏に終了した。

～講演内容一部抜粋～

残業というのは世界中にないのです。部下の能力をよく見て、時間内に終わるように仕事を配分するというのが管理者の大事な仕事ですから、残業でけへん女性は、偉くでけへんなんということを考える時点で、そういう中間管理職はトップがガンガン首を切って平に落とすべきです。本当の働きやすい社会をつくるということは、意識の改革が何よりも大事です。そのためには、人間の脳の仕組みや、マネジメントについて皆で勉強しなければなりません。面白い話があります。夜の11時くらいに社長が忘れ物をして会社に帰ってきたとします。若者が3人残業していたとします。そうしたら大体このように言うようです。「遅くまでご苦労さん。よう、きばつとるな。でも明日もあるのだから無理したらあかんで。早よ帰りいや。」心の中ではうちの若いやつは本当に会社が好きで嬉しいなと思って、日本の経営者は家路につく。今後暇があったら一回飲み連れて行ったらどうか、と思うようです。同じ状況で、グローバル企業の経営者が帰ってきたらどうするかというと、まず残業している人間の名前を全部ノートに書く。そして次のように考えるそうです。「誰や。こんなに仕事がでけへんアホな奴を雇った奴は。この3人は人事部長を呼んで真っ先にクビを切らなあかんな。その次に3人の上司を呼んで、こっぴどくどつかなあかんな。お前はどのような仕事の分担をしているのだ。11時まで残らなあかんなような仕事を振っているのか。こんなことをやっているようだったら、すぐ平に降格させるぞ。」これだけ意識の違いがあるのです。



主催者挨拶をする小山田副会長



出口氏による講演の様子



質疑応答の様子

平成 29 年度岩手県中小企業青年中央会事業

「若手経営者等連携促進フォーラム」開催

2月5日（月）、岩手県中小企業青年中央会（会長 澤田亮）主催による「若手経営者等連携促進フォーラム」がホテルメトロポリタン盛岡本館にて開催した。若手経営者の資質向上・異業種連携等による事業視野拡大と連携促進を目的としたもの。

青年部取組事例発表の部では、県内4組合青年部より課題解決や持続的な事業運営のための様々な取組みが紹介された。岩手県旅館ホテル（生同）青年部（澤田亮部長）からは「旅館ホテル業界の人手不足の現状と人材確保等の取組み」と題して、首都圏の大学生を対象としたインターンシップ事業「若旦那・若女将密着体験プロジェクト in 岩手」が紹介され、学生に宿泊業への興味を持ってもらうとともに、インターン生の受入先や周辺の観光地、岩手に関する様々な情報を学生から SNS により発信してもらうことができた等の成果が報告された。次いで遠野すずらん振興（協）青年部（菊池崇部長）からは「遠野すずらん振興（協）と次世代を担う青年部」と題して、自治体や金融機関との連携を実現している地域密着型のポイントカード事業の概要と、魅力向上やカードの利用促進に向けた様々な取組み、青年部勉強会から生まれた企画や取組みなどが紹介された。岩手県農業機械商業（協）青年部会（松田和秀部会長）からは「岩手県で株式会社 創立 100 年を迎えて」と題し、これまでの事業の沿革とともに近年の人手不足と人材確保難への対策について紹介され、定期的な採用による学校との信頼関係の構築や、生産性向上による業績および従業員の賃金アップを目指すなどの取組みが挙げられた。岩手県塗装（工業）青年部（高橋伸也部長）からは「青年部活動と人材育成、確保の取組みについて」と題して、青年部の情報発信による受注の増加や人材確保、そして異業種企業による相見積サイト等への対策を目的とした同組合青年部オフィシャル WEB サイト製作の事例が紹介され、この取組みの成功により、同様の悩みをもった全国の同業者への波及や業界全体の活性化へつなげていきたいとの目標が述べられた。



主催者挨拶をする澤田会長



参加者の質問に答える岩手県塗装（工業）青年部高橋部長



志が高く、利益も高い会社が求められていると述べる野田氏

引き続き行われた基調講演では、明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科教授の野田稔氏を講師に迎え「心の時代を迎えた企業経営、中小企業が成長するために ～人材確保、職場環境の整備、働き方改革への取組み～」と題して講演いただいた。氏は、労働人口減少の中における多様な人材の採用と活用のためには、企業・求職者ともに固定概念に捕われた考えを取り払うとともに、企業側は近年の就労意識の変化に応じた職場環境整備が必要であると述べた。また、全社員型タレントマネジメントによる適材適所の実現や業務構造・プロセス改革を通じた働き方改革等による労働生産性の向上、組織の価値創造能力の最大化、現場から生まれるビジネスモデル・イノベーション等について具体例を挙げながら説明し、これからの企業間競争の

フィールドは「人にしかできないこと」になり、イノベーションを起こせる組織の構築には「組織の楽観性」が重要であると述べた。

フォーラム後は懇親会を開催。講師を交え、新たな取組み・ビジネスにつながる情報や課題解決に向けた意見が交わされるなど盛会裡に終了した。

いわてキラリ企業合同就職説明会 2018 を開催

いわてキラリ企業合同就職説明会 2018（就職ガイダンス）を 3 月 8 日（木）にホテル東日本にて開催した。企業は 70 社が出展し、学生等を中心に一般求職者、保護者など 157 人（前年比 30 名増）より参加を得、いよいよ県内企業の新規採用活動がスタートした。

2019 卒対象の採用活動も就職解禁日は昨年同様 3 月 1 日、選考開始日は 6 月 1 日のスケジュールの中、本年度も大手企業を中心に採用計画を昨年並に設定している企業も多く、大手就職サイト調査部門の速報によると既に 3 月 1 日時点で内定率が 8% を超えたとされるなど、近年で最も新卒採用が難しかった昨年度以上に本年度も県内企業の新卒採用は難しくなることが予想されている。

本会では、新卒・一般を問わず WEB 求人情報システムを設け、合同就職説明会以降もリアルタイムに企業と新卒者や一般求職者とのマッチング支援体制を構築しており、イベント終了後も新卒者からのエントリーが日々入ってきているなど、引き続き県内中小企業の採用支援を進めてまいりますので、お気軽にご相談ください。



○合同就職説明会の会場の様子



○企業は趣向を凝らした PR を展開

岩手県 U・I ターンフェア II へ出展（共催）

3 月 4 日（日）に「岩手県 U・I ターンフェア II」（主催：公益財団法人ふるさといわて定住財団／岩手県）が東京都秋葉原の「秋葉原 UDX Gallery」にて開催され、本会も共催団体としてブース出展し、新卒者等の若者の就職相談や本会登録の求人企業情報等の提供を行った。

当日の参加企業数は、61 社が出展し、U・I ターンを目指す一般の方や新規学卒予定者等の参加者数は、66 人（学生 53 人、既卒・一般 13 人）。昨年同時期に比べさらに参加者数が減少したが、本会ブースには、多数の U・I ターン希望者が訪れ、就職相談対応を行うとともに希望に近い出展企業へのコーディネートを行った。



○本年度の集中支援企業の出展を支援



○中央会もブース出展し求人企業を PR

組合運営基礎研修会、組合決算・税務講習会、自治監査講習会開催

盛岡市の大通会館リリオにおいて2月19日（月）に「組合運営基礎研修会」、翌20日（火）に「組合決算講習会」「組合税務講習会」を、同月26日（月）にはいわて県民情報交流センター「アイーナ」において「組合自治監査講習会」を開催した。

【組合運営基礎研修会】

当研修会では「日常発生する組合の事務処理」をテーマに本会職員が講師を務め、組合への加入脱退、決算関係書類及び変更登記申請のほか、総会議事録の作成方法など幅広い分野について説明した。参加者は熱心に聴講し、多くの質問が寄せられた。

【組合決算・税務講習会】

組合決算講習会は、税理士の三浦憲一郎先生を講師に迎え「組合決算の手続きと留意点」をテーマに、組合決算の具体的な事務処理及び手続きに加え、平成30年度改正税法の特例事業承継税制、所得拡大促進税制等について説明した。

組合税務講習会は、同じく三浦先生を講師に「法人税務申告書作成の実務」をテーマとして講習が行われた。主な組合関係税制の概要や税法上における益金・損金算入となる対象経並びに税務申告書作成手続きについて、時折事例を交えながら解説がなされた。

【組合自治監査講習会】

当講習会は公認会計士の遠藤明哲先生を講師に迎え「監査方法の手法とチェックポイント」をテーマに、着目すべき点や実際の監査手法について説明した。また、監査法人における経験などから、企業等における不正事例についての紹介や、近年の大企業での不正問題の発生により、監査に対する金融庁のチェックも厳しくなっていると述べられた。



【運営基礎研修会の様子】



【決算・税務講習会の様子】



【自治監査講習会の様子】

会 員 情 報

岩手県管工事業協同組合連合会 創立30周年式典開催

2月16日（金）、岩手県管工事業協同組合連合会（佐々木 英樹 理事長）は創立30周年式典を記念し、花巻温泉ホテル紅葉館にて記念式典を盛大に開催した。

式典では、上田東一花巻市長ほか2名から祝辞が述べられた。式典終了後に祝賀会が開催され、本会谷村久興会長が乾杯の発声を行った。また、岩手県花巻農業高等学校の生徒による「花巻鹿踊」が披露された。組合関係者多数出席のもと、盛会裏に終了した。



式典の様子

花巻市大町商店街振興組合 創立40周年祝賀会開催

2月20日（火）、花巻市大町商店街振興組合（佐藤 良介 理事長）は創立40周年を記念し、ホテル花城にて記念祝賀会を盛大に開催した。本会からは谷村久興会長が出席した。

当組合は昭和52年に設立されて以来、永きにわたり花巻市の中心地である大町の発展、振興に大きく貢献されてきた。大町の通りは、電柱の地中化がなされ、風情ある街並みが楽しむことができる。



花巻市大町の街並み



1. 全国の景況

1月は、記録的な大寒波と雪害に伴う物流・商流の混乱が全国的に発生し、生鮮品を中心とする価格の高騰や需給不調も一層拡大しており、消費動向が大きく下押しされていることに加えて、引き続き雇用難や製造コストの上昇にも拍車がかかっているため、製造・非製造ともに経営環境は安定性を欠いている。

2. 景況天気図（県内）…平成30年1月と平成29年12月のDI比較

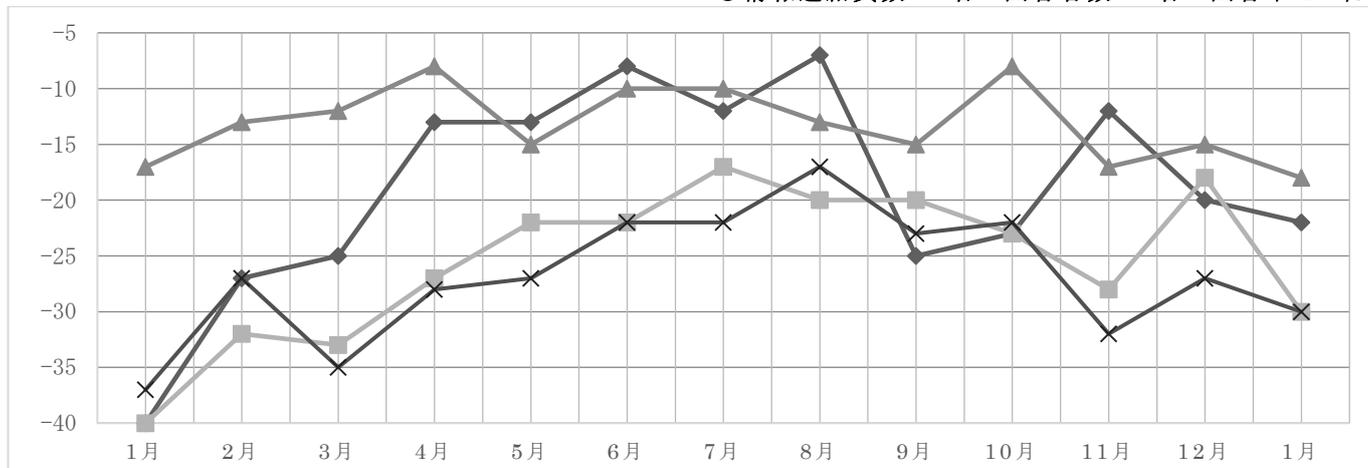
天気図の見方…各景況項目について「増加」「好転」業種割合から「減少」「悪化」業種割合を引いた値をもとに作成。その基準はただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向を表す。

平成30年 1月分	全産業			製造業			非製造業			30以上
	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比	
売上高	 △22	 △20	2P↘	 △14	 △10	4P↘	 △26	 △26	0P→	△9~9
在庫数量	 △12	 △14	2P↗	 △14	 △19	5P↗	 △10	 △10	0P→	△10~△29
販売価格	 3	 7	4P↘	 0	 0	0P→	 5	 10	5P↘	△30~△49
取引条件	 △8	 △10	2P↗	 △5	 △5	0P→	 △10	 △13	3P↗	△50以下
収益状況	 △30	 △18	12P↘	 △10	 △5	5P↘	 △41	 △26	15P↘	
資金繰り	 △18	 △15	3P↘	 △14	 △5	9P↘	 △21	 △21	0P→	
設備操業度	 △5	 0	5P↘	 △5	 0	5P↘	—	—	—	
雇用人員	 △12	 △8	4P↘	 0	 △5	5P↗	 △18	 △10	8P↘	
業界の景況	 △30	 △27	3P↘	 △5	 △14	9P↗	 △44	 △33	11P↘	

DI (Diffusion Index) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いた指数のこと。

3. 全産業（県内）…平成29年1月～平成30年1月DI推移（売上高・収益・資金繰り・景況）

○情報連絡員数 60名・回答者数 60名・回答率 100%



平成30年1月DI 《 ◆…売上 -22 ■…収益 -30 ▲…資金繰り -18 ×…景況 -30 》

4. 各業種の概況（県内）…平成30年1月分

◇パン製造業

イベントでは動員力を示し、人気のベーカリーがメディアで紹介されるなど、空前のパンブーム到来といわれるが消費金額はむしろ締りがち。

◇酒類製造業

今期は原料米は不作だったが、清酒の仕込みには寒さが必要不可欠であり、厳冬期を過ごした蔵でうまい酒が醸されることが期待できる。

◇めん類製造業

人口減少と地方の過疎化が販売数量の減少の要因となっている。地方と首都圏の格差がますます顕著に表れている状況である。

◇一般製材業

県内の素材需給は製材品の荷動きが活発化しているなか、請負作業の遅れなどから山からの出材量が少なく、製材用原木の不足が顕在化している。

◇木質チップ製造業

例年になく異常気象による降雪・雨で生産量は減少した。特に、広葉樹は山林が奥地化しており、除雪に追われトラック運搬に支障を来した。

◇生コンクリート製造業

出荷量は地域別で偏りが大きい。医大附属病院工事で県央地区が、防波堤工事で久慈地区が増加したが、他の地域は減少傾向となっている。

◇銑鉄鋳物製造業

鉄器の小売販売は減少しているが、ネット販売が好調で売上増となった。高品質で低価格の台湾製・中国製鉄瓶がネット市場に出回っているため、輸出額は大幅に減少した。

◇金属製品製造業

各業種とも従業員不足の状況である。

◇一般機械器具製造業

見積依頼等は増加しているが、対応に苦慮している。従業員の流動化が目立つ。

◇野菜果実卸売業

低温・天候不順に加え、関東地方の温暖な地域での降雪等の影響で、野菜が極端な単価高となっている。果物では柑橘類の入荷量が少なく、イチゴの低温による着色不良等で取扱金額が伸び悩む。

◇食肉小売業

生鮮三品の中で小売価格が安定しているため、消費動向は食肉に移行した。また、豚肉類の仕入価格が安定したため、収益状況も好転した。

◇野菜・果実小売業

極度の入荷数量減で過去に例のないほどの高値。

◇燃料小売業

原油価格は、産出国の供給が潤沢で市況が軟化したと見られ安くなっている。

小売価格は、LPGガス販売を取り巻く厳しい競争環境から、当分の間は現状価格で推移するものと見込まれる。

◇酒・調味料小売業

消費が低価格商品に流れており、売上・収益とも低迷。清酒は前年割れしているが県産清酒は維持。

◇商店街（二戸市）

売上は昨年並だったが、初売り商戦に力を入れた店舗と従来通りの店舗との差が見られた。

◇商店街（大船渡市）

近隣商業施設が復興・再建後初の年末年始であったが、積雪が少なく内陸への流出客が増加。一変して下旬は降雪・低温での路面の凍結など外出を控えたか売上客数共に減少した。

◇商店街（北上市）

初売は順調に推移、中旬までは昨年を上回ったが、下旬は寒波・大雪で大きく売り上げを落とす。その中で、食品・飲食・ゲームコーナーは好調を維持。

◇商店街（久慈市）

例年になく寒さが厳しく、雪による路面凍結、猛威を奮うインフルエンザの予防のため商店街に人が来ない状況になり、売上は大幅に減少した。

◇商店街（盛岡市）

競争の激化で価格面、サービス面に影響が出ている。

◇自動車整備業

主力の継続車検需要が厳しい状況の中、人材確保や急速に進展する新技術対応の設備投資等の課題を抱え、経営強化の基盤が求められている。

また、新車販売も前年割れが続いている。

◇土木工事業

全体的に復興工事の減少と工事の遅れによる影響で出荷量が減少した。

◇塗装工事業

例年になく寒気と降雪で仕事が減少、加えて、職人不足が顕著となるなど厳しい景況となっている。

◇倉庫業

ピッキング作業による超過勤務の増、受寄物保険の見直しによる追加費用、保管資材等の費用により事業支出が前年を上回った。

◇一般貨物自動車運送業

10月以降、燃油価格の上昇が止まらない。



第 63 回岩手県中小企業団体中央会通常総会開催のご案内

下記日程にて、第 63 回中央会通常総会を開催致します。

- 開催日時 平成 30 年 6 月 21 日（木）15：00～
- 開催場所 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

※詳細につきましては、後日改めてお知らせ致します。 ○担当：統括管理部 TEL：019-624-1363

第 41 回岩手県中小企業青年中央会通常総会開催のご案内

下記日程にて、第 41 回青年中央会通常総会を開催致します。

- 開催日時 平成 30 年 7 月 18 日（水）
14：00～ 通常総会
15：00～ 青年部講習会
17：30～ 懇親会
- 開催場所 ホテル東日本盛岡

※詳細につきましては、後日改めてお知らせ致します。 ○担当：企画振興部 TEL：019-624-1363

第 70 回中小企業団体全国大会開催のご案内

下記日程にて、第 70 回中小企業団体全国大会の開催を予定しておりますので、お知らせ致します。

- 開催日時 平成 30 年 9 月 12 日（水）
- 開催場所 上七軒歌舞練場・西陣織会館（京都府京都市）

※本会では、全国開会ツアーを企画します。大会、ツアーとも詳細につきましては、後日改めてお知らせ致します。 ○担当：企画振興部 TEL：019-624-1363

岩手県中小企業団体中央会 主要日誌		平成30年2月分
■岩手県中央会主な実施事業等		2月6日 労働者派遣事業適正運営協力員会議
2月1日	販路開拓相談会（大船渡市）	いわて企業支援ネットワーク会議
	岩手大学「業界研究セミナー」	2月7日 岩手県緑化推進協議会
2月5日	若手経営者等連携促進交流フォーラム	2月8日 組合青年部活性化研究会
2月7日	ウルトラD成果波及セミナー成果発表会	2月9日 いわてで働こう推進協議会
2月8日	販路開拓相談会（山田町）	ラグビーW杯広報・イベント専門部会
	いわてキラリ企業・業界研究セミナー	2月13日 正社員転換待遇改善等に関する関係団体等への要請
2月9日	販路開拓相談会（宮古市）	2月14日 いわて海外展開支援コンソーシアム会議
2月19日	組合運営基礎講習会	経済団体等情報交換会議
2月20日	組合決算・税務講習会	2月16日 岩手県管工事業（協連）創立30周年式典
2月21日	商業活性化セミナー	2月19日 岩手県中小企業振興基本計画外部委員会
2月22日	女性活躍促進セミナー	2月20日 外国人技能実習制度適正化事業研修会
2月26日	自治監査講習会	岩手県地域訓練協議会
■関係機関・団体主催行事への出席等		2月21日 花巻市大町（商振）創立40周年記念祝賀会
2月2日	いわてアグリフロンティアスクール評価委員会	2月22日 中央会事務局代表者会議
	岩手県知財総合支援窓口連携推進会議	2月23日 「いわて産業人材奨学金返還支援制度」審査委員会
	盛岡マチナカララグビーボールパスリレ—実行委員会 設立準備委員会第1回検討会	貸付審査委員会（岩手県信用保証協会）